



平成 29 年 2 月 23 日  
海 上 保 安 庁

## 第 3 回 VTS<sup>\*1</sup> 管制官の人材育成にかかると ASEAN 地域会合の結果

～国際基準に沿った OJT 実施内容を確立する重要性を共有しました～

海上保安庁は、平成 29 年 2 月 13 日から 17 日まで、ASEAN 諸国において船舶の航行安全対策を所管する関係当局職員を日本に招き、VTS (Vessel Traffic Service : 船舶通航支援等業務) 管制官の育成に関する地域会合を開催しました。

本会合では、ASEAN 諸国における VTS 管制官の育成に向けて、国際基準に沿った OJT の企画、実施及び評価の方法について活発な議論が行われ、OJT 実施内容及び実施手順を確立する重要性及び必要性を共有しました。

### 1. 参加国等

ASEAN 諸国 (インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス) 及び IALA<sup>\*2</sup> から、船舶の航行安全対策を所管する関係当局職員が参加しました。

### 2. 会合の成果

本会合では、ASEAN 諸国における VTS 管制官の育成に向けて、VTS 管制官育成のための ASEAN 地域訓練センター<sup>\*3</sup>において基礎訓練を修了した研修生に対し、各国において国際基準に沿った OJT を実施するため、以下の点を共有しました。

- ・ ASEAN 各国の交通状況及び港湾状況に即した VTS が必要であること
- ・ 計画的かつ段階的に VTS 管制官を育成する必要があること
- ・ 各国の VTS の違いを考慮しつつ、OJT を実施することが重要であること
- ・ VTS 管制官の能力を確認するため、OJT の実施内容や OJT により取得した知識・技能を記録することが重要であること

これらを踏まえ、基礎訓練実施後、ASEAN 各国において国際基準に沿った OJT の実施内容及び実施手順を確立する重要性及び必要性を共有しました。

- ※1 VTS (Vessel Traffic Service : 船舶通航支援等業務) は、航行船舶の安全性と効率性の向上等を目的に、レーダー、AIS、VHF 無線電話等を活用し様々な情報を収集したうえで、航行船舶に対し入航時刻の指示、危険回避の勧告等、必要な情報を提供する業務です。
- ※2 IALA(International Association of Marine Aids to Navigation and Lighthouses Authorities : 国際航路標識協会) は、IMO (国際海事機関)、ITU (国際電気通信連合) 及び IHO (国際水路機関) 等と密接な関係を保ちつつ、航行援助事業にかかる諸問題の検討、航行援助事業の標準化のための勧告・ガイドライン等の制定及び各国・地域の航行援助事業の発展等に努めている非政府組織です。
- ※3 ASEAN 諸国における効果的な航行安全対策を推進するため、海上保安庁は日 ASEAN 交通連携の枠組み (平成 15 年に創設された日本と ASEAN 諸国との交通分野の協力枠組み) により「海の安全についての協力 (VTS 人材育成協力プロジェクト)」を立ち上げました。当該センターは、本プロジェクトにより、マレーシアにおいて設立準備を進めている VTS 管制官育成のための訓練施設です。



集合写真



会合の様子